

[健康診断大国の新常識 永久保存版]

発見率はバリウムの3倍、鼻から入
診てもらおうなら「神の手」に

医師が選んだ
「胃カメラ」の



川田医師(静岡)



伊藤医師(大阪)



長南医師(宮城)



川田医師(香川)



吉田医師(東京)

れて苦しくない

●岩澤倫彦(ジャーナリスト)
と本誌取材班



上手いか
下手かで
天国と地獄

●長南明道・仙台厚生病院
院長(宮城・仙台)
長南医師が院長を務める
仙台厚生病院は、胃の内視
鏡検査で年1万2000件、
高度な技術を要するESD
治療(※)は年374件で
国内3位の実績を誇る。
内視鏡室の6つのブース
で長南医師ら7人の内視鏡
指導医、5人の専門医らが
検査を行なう。各ブースの
検査画像はマルチ画面に表
示され、指導医の目が光る。
「当院では内視鏡検査を行
なった医師と別の医師が、
受診者への説明を担当しま
す。効率性を高めること、
画像のダブルチェックとい

「口から」より

を受けたい内視鏡医を最大
5人まで挙げる」アンケート

トを重
した、

その内視鏡検査には様々
な誤解もあるので、経鼻内
視鏡検査はバリウム検査よ
り3倍以上も発見率が高い。
検査に要する時間は5〜10
分程度で済むし、発泡剤や
不味いバリウムを飲んでゲ
ップを我慢し、その排泄の
ために下剤を飲んだりする
負担もなくなる。
「鼻か
「経鼻
ので明
明する
いが、

全国

「名医」120人

あれ? 「オエ

来年4月から自治体の胃が
「視鏡」による検査が導入され
発見率は高い。今回は専門医に
カメラの名医リストを作成。肝
の著者・岩澤倫彦氏(ジャーナ

年間5万人近い人の命を
奪う胃がんは、早い段階(ス
テージ1)で見つかれば9
割以上が完治できる。早期
発見を実現するため、来年
4月から自治体の「胃がん
検診」で内視鏡検査(胃カ
メラ)がバリウム検査と選
択制で導入され、内視鏡の
場合、検査の間隔は「年に
一度」ではなく「2年に一
度」になる見込みだ。
メリットは様々ある。内
視鏡検査はバリウム検査よ
り3倍以上も発見率が高い。
検査に要する時間は5〜10
分程度で済むし、発泡剤や
不味いバリウムを飲んでゲ
ップを我慢し、その排泄の
ために下剤を飲んだりする
負担もなくなる。
その内視鏡検査には様々
な誤解もあるので、経鼻内
視鏡検査はバリウム検査よ
り3倍以上も発見率が高い。
検査に要する時間は5〜10
分程度で済むし、発泡剤や
不味いバリウムを飲んでゲ
ップを我慢し、その排泄の
ために下剤を飲んだりする
負担もなくなる。
「鼻か
「経鼻
ので明
明する
いが、

う二つ
長南
「高度
可能な
を使い
苦しく
8割の
る状態
実は
各地で
ため、
看護師
安全対
●吉田
器科部
年4
査を行
D治療
鏡スタ
吉田
ベスト
「胃が
ク群対
たら、
3%」

	平川克哉	福岡赤十字病院 消化器内科	福岡市南区大楠3丁目1-1	092-521-1211
	安元健二	安元内科・胃腸クリニック	福岡市博多区吉塚本町13-27-2F	092-292-8703
佐賀	緒方伸一	佐賀県医療センター好生館 消化器内科	佐賀市嘉瀬町大字中原400	0952-24-2171
	黒田久志	内科・外科くろだ医院	鳥栖市元町1328-5 NTT西日本鳥栖ビル1階	0942-50-5833
長崎	金子 巖	いなさ内科・胃腸クリニック	長崎市弁天町13-12	095-864-1006
	西山 仁	長崎医療センター 消化器科(消化管)	大村市久原2丁目1001-1	0957-52-3121
	本田徹郎	長崎みなとメディカルセンター市民病院 消化器内科	長崎市新地町6-39	095-822-3251
熊本	土亀直俊	熊本県総合保健センター	熊本市東区東町4丁目11-1	096-365-8800
	満崎克彦	済生会熊本病院予防医療センター	熊本市南区近見5丁目3番1号	096-351-8000
	三原修一	みはらライフケアクリニック	熊本市東区上南部2-1-79	096-237-7555
大分	慶田祐一	けいだクリニック	中津市中央町1-7-46	0979-24-5222
	時枝正史	時枝内科医院	宇佐市大字葛原777-1	0978-32-3200
宮崎	伊瀬知 倫子	池田病院 内科・胃腸内科	小林市真方27-1	0984-23-3535
	楨 信一郎	楨内視鏡内科病院	小林市真方242	0984-22-2819
鹿児島	岡田富志	おかだクリニック	出水市昭和町45-1	0996-63-7011
	橋口真也	はしくちクリニック	南さつま市加世田東本町14-14	0993-58-2222
沖縄	大城 雅	大城クリニック	那覇市上原1-1-1	098-853-3121

の内視鏡を使い分け、胃がんの早期発見を目指す。

◆佐賀県医療センター好生館の緒方医師は、5人の消化器内科医チームで年間約4500例の検査を実施。治療件数は854例を誇る。

◆長崎・金子医師は、内視鏡専門医。症例数1万例以上で、医療関係者が多く来院していることが、診断能力の高さを証明する。

◆熊本・三原医師は、日赤熊本健康管理センターに29年間勤務。胃がんの早期発見に力を注いできたスペシャリスト。検査には炭酸ガスを使用して患者の負担を軽減する。

◆宮崎・楨医師は、大学病院勤務の経験を基に内視鏡内科を開設、地域住民を胃がんから守る。

◆沖縄・宮城医師は負担の少ない経鼻内視鏡を使用。地域のかかり